



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 1 月 8 日(金)

発行 館長 加藤 智 一

寿命

古くからのことわざに、おめでたい長寿の例えとして、「鶴は千年 亀は万年」と申しますが、実際のところどうなのでしょう。鶴の平均寿命は、種類や飼育環境によって違います。タンチョウヅルは、20～30 年です。他の鶴の平均寿命はナベヅルが 20 年、マナヅルは 45 年。鶴の中でも最も平均寿命が長いと言われるアフリカに生息するカンムリヅル（野生）でも平均寿命は 50 年～60 年です。飼育されている鶴はもっと平均寿命が長く、50～80 年は生きると言われています。人間から見ると、長寿とは思えないかもしれませんが、鶴は鳥の中では長生きです。他の鳥では、白鳥の平均寿命が 70 年、コンドルの平均寿命が 60 年と鶴よりも長生きですが、一般的な鳥の平均寿命は 3～10 年です。そう言えば、家で飼っていた文鳥のブンシロウは 8 年で旅立ちました。そんな訳ですので、身近な鳥の中では鶴が長寿の象徴ということになるのでしょうか。

一方の亀はというと、鶴と同じように、種類によって平均寿命は違いますが、ウミガメやリクガメのように大きな亀は 30～50 年、ミドリガメなどの小型の亀の平均寿命は 20～30 年だそうです。鶴よりも平均寿命が短いと感じた人もいるでしょう。しかし、セーシェル諸島に生息するアルダブラゾウガメは平均寿命が長く、150 年です。ゾウガメも比較的寿命が長く 100 年は生きるそうです。そうすると、人間より長生きなわけですから、亀はいつ亡くなるのだろうと不思議に思うのも納得です。

ところで、その人間様ですが、今でこそ日本人の平均寿命は男性が 81.47 歳、女性が 87.57 歳ですが、縄文人の男性は 31.1 歳、女性は 31.3 歳だったと言われていますし、戦国時代、かの織田信長が能を舞いながら言ったとか言わなかったとかの「人間五十年 下天のうちをくらぶれば 夢幻の如くなり」は、民俗芸能「幸若舞」の演目「敦盛」の一節。医学の進歩や食生活の変化、住環境の変化、地球環境の変化、ストレスの軽減など様々な理由で人間の寿命は長くなってきたのでしょうか。また人間の寿命の限界について、現在の研究では、130 歳まで生きられる可能性があるという報告もあるそうです。

ですが 60 を過ぎた私にとって、最も重要なことは、何年生きるかという寿命ではありません。どれだけ

健康に過ごせるかという健康寿命の方です。世の中には、このような高齢者の欲望を擦る怪しげなサプリメントや健康食品、はたまた健康器具に健康グッズが溢れています。思わずネット広告に騙されそうになることもしばしば。ボケてる暇もありません。



鮭

「職場の教養」(一社)倫理研究所 1 1 月号より

「鮭のまち」とも呼ばれる新潟県村上市では鮭の字のつくりが「十」と「一」を重ねた形であることから、1 1 月 1 1 日を「鮭の日」に制定しています。江戸時代後期、村上藩の武士であった青砥武平治は、鮭には生まれた川に再び戻ってくる習性「母川回帰性」があることを発見しました。

そこで、川を本流と支流に分断して、本流の鮭はこれまで通り漁獲し、支流に遡上した鮭は獲らせずに産卵を行わせることを藩に進言しました。

後に「種川の制」と称されるこの制度は、「人工孵化増殖」が普及するまでの 100 年間、日本の鮭を増殖させる方法の主流となりました。

